

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	うさぎグループホーム
(ユニット名)	うさぎグループホーム
所在地 (県・市町村名)	三重県松阪市射和町644-2
記入者名 (管理者)	管理者 西川毅      施設長 棚橋純子
記入日	平成21年 1月10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は重点項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念をホールに掲げ職員一同毎朝声に出し意思統一を図ろうと取り組んでいる。しかし、地域で暮らしていく中でうさが持たなければならない地域についての理念が入っていない。</p>	○	理念の1つに(地域交流を支援します)を加える。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日朝の申し送り時に読み上げて理念の意思統一を図っている。又理念の実践の為、業務中・会議で話し合っている</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会・運営推進委員会・施設行事などを通じてグループホームの様子などを理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	○	運営推進委員会の参加者が増え、グループホームの理解が深まり誰もが気兼ねなく立ち寄れる場所である為にまず、運営推進委員会に来ていただく方々に充実した会議内容の工夫をしてゆきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>相談時などは来ていただくが、気軽にという状況ではない。利用者様との散歩時・通勤時に挨拶、声かけはしており施設行事時は地域の方にも声を掛け参加していただいている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>老人会の敬老会(射和町)に職員参加させてもらい、小学校の運動会の見学・文化祭展示に参加させてもらっている。</p>	○	利用者様の身体状況が許せば今後もっと地域の行事に参加してゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会で地域の高齢者様の状況を聞かせていただき当事業所が何か暮らしに役立つことが無いかを話し合い、取り組んでいる。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年の反省として自己評価・外部評価を認識している。評価を生かして改善の為会議で話し合い日々取り組んでいる。	○	介護の質を高める為に施設・職員個人の目標を設定する。(前期・後期)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でグループホームの取り組み・行事など報告はしているが現状は、意見無く委員会を生かしきれてない。	○	委員会を開催することで精一杯が現状で委員会を生かしきれていない。委員会の会議内容を再検討する必要があるが、地域の井戸端会議になってしまいがちで難しい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携が出来にくい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状は管理者が勉強会への参加をし、権利擁護に関する制度の理解をしている。	○	職員の入れ替わりが激しい為、積極的な研修が難しいが今後確実なる研修を入れていくよう現在努力している。権利擁護・成年後見制度についても研修があれば随時行ってもらおう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年松阪市より勉強会の開催指示があり、虐待について職員一同理解をした。	○	日々の業務の中で職員の虐待予防意識が薄れないよう適宜再認識する場を設けるよう努力してゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約書・重要事項説明書を契約日前に持ち帰ってもらいしっかり目を通していただいた後契約日に再度説明する。 (理念・金銭・権利擁護については念入りに説明)</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>意見・不満・苦情など管理者で対応できない場合、施設長が対応しているが、外部者へ表す機会が設けられていない。</p>	○	外部へ表す機会を設けて行きたい。運営推進委員会への出席等
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎日の介護記録,新聞,お小遣い帳を家族様に月に1度請求書と伴に送付している。職員移動については新聞で報告しているが十分ではない。また、急変時、病気時については適宜電話連絡している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族会・面会時等で家族様の意見を伺っているが何処まで本心を出されているかわからない。しかし、外部評価でいただく家族様意見を職員と伴に喜び又、反省し解決に向け努力している。</p>	○	外部者へ表せる機会として運営推進委員会があるが、家族様の参加が少なく運営に反映出来ていないので参加をもう一度呼び掛けてゆく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>週1回の会議において職員の意見を聞き、可能な事に関しては意見を反映させている。</p>	○	個人面談を設け何でも言える機会を持つ
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>常勤3人にプラス1～2人の勤務体制にて緊急時などの柔軟性を持たせている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>異動・離職を出来るだけ少なくしようと努力はしている。職員交代になる場合は、利用者の状態・性格などを分かり易く管理者が説明し業務にも早く慣れるように勤務を組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の退職・体調不良などで計画倒れも度々あるが、研修があると段階に応じて研修を受ける機会を設けるよう努力している。日々業務の中でも始めての体験などその都度勉強している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日々の業務をこなすのが精一杯で、余裕を持ってしか出来ない交流は殆ど出来ていなかった。	○ 職員交代で業務の乱れなどの為どちらかを優先とするならば研修に行かせる事が優先であったが、今後グループホーム連絡協議会などの参加を確実に出来るよう研修と伴に計画してゆく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	開設5年目にて職員のストレスを考えない日は無かったが、未だに職員のストレス解消・軽減の為にどうすればいいのか未だ取り組めていない。	○ 職員の声を聞き職員のストレスの原因を理解し、職員と話し合いができることをしていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場の中に入り1人1人を見るよう努力しているつもりだが、確実に見えていない事もあるように思う。向上心については、努力を褒めるようしている。	○ その日の業務をこなすのに手一杯という状況もあり、これ以上無理と意欲減退の場面も見え隠れしている職員もいる。業務の改善が必要なのか思案中である。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現状として利用前に利用者様と面談を持つことは少ないが利用前にしろ後にしろじっくり話しを聞き安心感を得てもらう。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度でも話を根気良く聞き、家族が望むスタイルを考える。(希望によるスタイルにて他の施設も紹介する)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じで相談者の望むスタイルを柔軟に対応してゆく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所も考えてはいるが、今の所そのような形で入所された方はいない。現状はデイサービスを利用されていた方が慣れた施設での入所が多い。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	状態も介護度の高い方が多い為か、支えあう関係というより支えているという一方的な関係になっている。	○	支えあう関係が出来るように取り組むにはどのようにしたら出来るのか他のグループホームと交流を持ち学びたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	良い事でも悪いことでもちょっとした利用者様の様子を面会時に家族会時にと話している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会を大切にし、余計な干渉はしない。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方にはゆっくり会っていただき、電話でもゆっくり遠慮なく話していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の状態・介護度によって9人全員の利用者間の関係を作るのは難しいと思われる。しかし、1部の利用者様によってはいろんな場面で支え合える様支援し、良い人間関係が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院され、特養を予約されていた利用者様とは継続的に連絡を取っていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示をされない方については、家族様の意向が優先し、状態に合わせて家族様と相談し決定してゆく。本人の意思がはっきりしている場合は意向に沿えるよう努めている。	○	意向が職員では意思統一されていない時があるため、介護計画で皆が意思統一できるようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面接時に情報を確実に本人・家族様より聞き、利用後再度把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録・申し送りなどを通じて利用者1人1人の状態把握が出来ている。		
。				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族様と計画作成者・計画作成者と職員の間でしか話し合いがなされていない	○	家族様・職員・計画作成者・本人様が揃った中での計画を今後は考えてゆきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	十分な介護計画の見直しは出来ていない。状態変化時話し合いをしているが、書面変更までには至っていない。	○	随時書面変更し家族様とも連絡を取る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉、状態把握、気づいたことなど療養記録へ記入し、職員間で情報の共有を行なっている。介護計画の見直しも立案された内容をケア会議の席で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養、希望の方は申請をだしてもらっている。利用者の中にはターミナルまでを希望されている家族もいる。本人や家族の状況など話しをしながら、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練は年二回施行。その他においては協力体制はおこなっていない。	○	運営推進委員会において地域の方々と協働を図っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養の申し込みにて 他のケアマネと話し合い支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状希望、必要性なく協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一度は受診、往診してもらっている。日々の様子で何か異常なことがあった場合は連絡をおこなっている。状態変化の場合はその都度対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症専門医の診断や治療も受けられるように支援していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	センター方式への様式の使用してみるか、現在考え中である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格やプライドなどを考えた言葉の掛け方を気をつけてしてはいるが、まだまだ十分ではないように思われる。療養日誌などは十分配慮して管理はしているが、場合によって対応が出来てないときがある。	○ 療養日誌の記入場所、取り扱いの徹底。言葉掛けの徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の声を傾聴して希望や思いをつかみとり、一緒に考えたりし、本人に決めてもらうように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせることは難しいこともあり、職員のペースに合わせてしまうことがある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の声を聞きながら服装を選択したり、季節に見合った服装を選択するなどの支援をおこなっている。化粧など美容などの訴えはその都度対応している。散髪については職員がカットするなど対応はしているが、本人が理容室を希望されている方が一人いるが、家族の外出時にて対応されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・盛り付け・あとかたづけは利用者一人ひとりのレベルに合わせて対応している。食事については 一緒には食事は摂れてはいないが楽しく話しをしながら 介助見守りをおこなっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の食べてはいけないものや嗜好についてもフェースシートに記載してある。暖かい飲み物、冷たい飲み物などは本人の希望を聞いて出している。行事などによってはお酒などたまに出す時もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。排泄チェックシートの活用にて2, 3時間おきにトイレ誘導をおこなっている。排尿パターンの把握にも努めている。立位の取れない利用者もトイレにて排泄介助をおこなっている。	○	パットへの尿失敗をしないように声かけをおこなっていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望されている方は1日おきに入浴されている。入浴時間・入浴希望など聞かないで職員の都合で入浴していただいている為、二日間も入浴できないときがある。	○	1日おきに入っていただけるように、職員間で話し合っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の希望、状態により、各居室に休んでもらっている。昼寝の時間を一時間程度設けている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の体操をおこなっている。編み物、カラオケ、歌、ゲームなどを無理のないように行い、日々変化をつけている。一人ひとりの役割を持ってもらえるように新聞取り、カレンダー管理、食器拭きなどしてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は持っておられる。小遣いとして施設管理して利用者が使いたい時は職員がその都度対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩などに取り組み 個人の機能にあわせて、それぞれに利用者の状態に合わせて支援を行なっている。玄関先での日光浴もおこなっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わってもらおうとドライブや花見など定期的に外出できるように計画を立てている。家族との外出することもあれば、車いすなどを貸し出すなど支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話があれば本人につなぐ。 電話がかけたいと希望があれば介助していく。 手紙の希望があれば対応している。	○	利用者からの手紙(年賀状・暑中見舞いなど)を家族へ書いてもらえる方向で進めていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設の玄関も開放的にしてあり、家族の面会も自由にきてもらっている。訪問時はゆっくりと居室などで訪問できるようにしている。 家族会などを催して家族の方達が足を運んでもらえるように努力している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解してもらっている。 身体拘束についても十分な話し合いをもっている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けずに開放している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡視など利用者の状況に応じて対応している。 プライバシーも扉を開ける時はノックするなどしている。 常に利用者の所在を職員間で確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なるべく利用者の目のつかない場所に置いている。 作業時は職員と一緒にいるようにしている。 づいた時は会議の中で話し合っている。	気 ○	
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握して、事故を防止するように徹底している。 もし発生した場合、ヒヤリハット・事故報告書を記載し今後起こらないように話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期の対応については、ほぼ理解している。	○	応急手当などを定期的な勉強をしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回のペースでおこなっている。今年度は夜勤帯で避難訓練の実施をおこなった。利用者の避難方法にちても話し合いを行っている。	○	地域の人々の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	運営者・管理者が家族へ説明行っている。職員会議の中でも話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調の変化を気にケアしており、異常があった場合は状態の把握し、他の職員へ情報を連絡しあっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の準備・介助は ほとんど職員がしている。薬の目的についてもフェイスシートを作成し 職員が認識できるようにしている。病院からの処方箋もファイルにまとめてあり、副作用などについても確認できるようになっている。	○	利用者の症状変化、内服薬の変更などを確実にできるような、現在工夫をしている段階である。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が三日以上なかった時は薬による対応をしている。冷たい牛乳などを飲んでもらったり、腹部の「の」字マッサージを施行したりしている。	○	イスに座っていることが多いので職員が声をかけて、身体を動かしてもらえようようにしている。便秘予防による体操で出来そうなものがあれば 実施していきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた口腔ケアをしている。毎食後行うようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の確保は 1日の飲水量を記録し、量の調整をできるようにしている。食事の摂取量は記録し、月始めの体重測定で確認している。朝・昼・夕のメニューが同じようなものにならないように工夫している。食事介助については一人ひとりの状態をみながら支援している。	○	現在、食材配達サービスを利用しているため、すこし若向きの料理が多いため、調理の日を設けていきたい。栄養士による栄養指導にも設けていけたらいい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防注射の実施 感染症マニュアルを作成してある。 予防(手洗い・うがい)には声掛けを行っている。 タオルからペーパータオルへの変更 アルコール・ピュラックス・ヒビテンなどで消毒している。 ?入浴時の予防方法の徹底方法ができていない	○	再度 感染症について再認識できる機会を作っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材を配達してもらっている。 冷蔵庫をチェックして食材の管理している。 調理器具、食器類は食器洗浄機の使用している。	○	まな板の消毒方法の徹底。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつも OPENで開放的にしてある。 季節の花を飾ったり、玄関周りもきれいに掃除している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(ホール)では、テレビの音量が大きくなることもある為、その都度 職員が気にしている。窓や玄関は大きく 外の光が入り、窓から山の景色を見て季節感を感じれるようになっている。	○	壁には季節的な物を貼ってより、いっそう季節感を感じてもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(ホール)にてソファは設置し 玄関にもベンチの設置してあるが、利用者全員が共用空間にすることが多いので、そのような場所はないが 座る場所は決まっているので すこし、ゆっくりとできる様にはなっている。独りになりたい時は居室にて過ごしてもらっている。	○	ちょっとした空間を工夫して作ってほしい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の方と話をしながら 使い慣れたものを持ってきてもらっている。 利用者の状態により持ってきたものもある。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上みがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝換気を行っている。 施設内にある温度計を見ながら 冷暖房の使用を注意している。冬には加湿器の使用をしている。	○	換気は 居室、朝1時間 ホール、その都度、空気の入れ替えを行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも動ける広い廊下、手すりの完備、施設内バリアフリーになっており、どのトイレも広がっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかりやすいような施設作りがしてあり、利用者が混乱しないように職員が常に支援している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場が広いので野外活動のときは利用者と楽しんでいる。散歩して、庭の花を見にいたりすることがある。	○	施設に畑があるので 野菜作りを利用者と一緒に行きたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・リハビリ体操は毎日行なっている。口腔体操は必ず行なっている。
- ・必要な医療面での処置や受診に関して家族の方に負担をかけずにスタッフの介助で解決している。
- ・排泄の失敗のないよう、全員の方を介助声掛けし、支援している。
- ・家庭の延長である雰囲気を守って静かに過ごして頂いてる。
- ・至らないこともあるかと思うが、職員は精一杯働いていること。